

令和四年（2022）度アサンプション国際中学校高等学校 学校評価報告書

I 理念

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」、また5つの基本理念「LIFE TRUTH FREEDOM GOODNESS ONENESS」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

II 最重要課題

1. 入学者の確保：中学校50名以上、高等学校130名を目標とした広報戦略の強化
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上
3. 学校改革に見合った施設設備の充実

【学校評価アンケートの結果と分析】

年度末の2023年2月に、中学1～高校2年生はClassiを利用したWebアンケート方式で、高校3年生はアンケート調査用紙を配布する方式で実施した。

（保護者）

肯定的評価が高く7割を超えるのは、「学校の理念が伝えられている」「校則を守っている」「学校行事を通して多様な体験ができています」「修学旅行・学習旅行など校外活動がお子様の成長に寄与する」「担任は家庭との連絡を大切にしている」「タイミングよく情報提供されている」「教員の服装」「学校は教育を行う上で十分な施設・設備を整えている」であった。また「今のクラス・学級に満足」について保護者の約7割が肯定的回答をしている。このことから「理念」「校則」「学校行事」「情報提供」「施設・設備」といった項目で満足度が高いといえる。

一方肯定的評価が低く5割を切るのは、「宿題の量や内容は適切」「大学受験に対応できている」であり、前者の「宿題の量や内容は適切」は中学生での課題で「多い」「少ない」双方の意見があると思われる。後者の「大学受験に対応できている」については、「わからない」が4割を占め、高校2年までのアンケートであったことから、「わからない」という回答が多かったものと思われる。

（生徒）

肯定的評価が高く7割を超えるのは、「学校の理念が伝えられている」「自分や友人は校則を守っている」「将来の進路や生き方について考える機会がある」「進路に関する説明会・学習指導が行われている」「学校行事を通して多様な体験ができています」「クラブ活動や宗教活動は活発である」「現在の生徒・クラスに満足している」の項目であった。このことから「理念」「校則」「進路行事・進路HR」「学校行事」「部活動・宗教活動」「学級経営」といった項目では満足度が高いといえる。とくに「進路についての説明会・考える機会の提供はここ数年進路指導部が力を入れてきたところであり、2022年度は学年も「トモノカイ」の現役の大学生と一緒に進路HRを行ってきたことが、評価されたものと思われる。

一方肯定的評価が5割を切るのは「学校は十分な施設・設備を整えている」であり、また「わからない」が4割を占めたのは「希望する大学受験に対応できている」であった。前者の「設備」は冷房環境、機器設備の不調、LANの混雑、設備の老朽化などがあげられる。後者はアンケート対象が高校2年生までとなっているため「実際のところはわからない」ということが考えられる。

（教員）

保護者へのアンケートの「担任は家庭との連絡を大切にしている」「タイミングよく情報提供されている」が高く、保護者・生徒アンケートの「今のクラス・学級に満足」が7割近くが肯定的評価であることから、学年・学級経営に力を注ぎ、それが評価されていることがわかる。

また今年度生徒アンケートの「進路への働きかけ」、「学校行事の充実」などは数値が上昇したことから、これらに対する取組も評価されているといえる。

III 本年度最重要課題に対する施策、及び自己評価

最重要課題	今年度の重点目標 (Plan)	具体的な取組計画・内容 (Do)	評価指標 (Check)	自己評価 (Action)
1 入学者の確保・広報戦略の強化	(1) 中学校50名 高等学校130名 を目標とした広報戦略の強化	1) Webページによる情報発信力の強化	<p>ア) 紙媒体によるイベント告知からWebページへ誘導する流れを確立する。</p> <p>イ) Instagramによる様々な学校情報の発信</p> <p>ウ) 広報戦略会議の小・中高連携</p>	<p>ア) 結果：△ イベント毎にチラシを作成し、塾・公立中へ配布し、知名度向上を図った 中学入試については効果が薄く、方法等を検討する必要がある。</p> <p>イ) 結果：○ 学校ブログのこまめな更新や、学校のInstagramによる発信、パンフレットと連動したWebの更新など、ネット上での情報発信の充実を目指した</p> <p>ウ) 結果：○ 管理職を中心に小学校保護者向け説明や、併設小生徒保護者だけを対象としたオープンスクールを5月に企画した。併設小学校からの入学者は8名から29名と増加したが予断は許さない状況である</p>
		2) 説明会の目的を明確化と内容の充実	ア) 「生徒を見せる」企画の立案	ア) 結果：○ 在校生による学校説明、生徒による歓迎パフォーマンス、お手伝い生徒の起用、公開授業の実施などいずれも参加者に高評価を得た。
	3) 内部満足度の向上	イ) イベント回数の増加	イ) 結果：○ 月に1回を目安に広報イベントを企画し、10月以降は小規模なイブニング説明会も実施し、総参加者数は昨年度より高校で119名、中学181名増加した	
	4) 入試制度の改善	ア) 修学旅行・生徒会行事の活性化	<p>ア) 結果：○ 合唱コンクールを除くほとんどの学校行事を実施し、チャリティ・デーも2年ぶりに復活させることができた。宿泊行事も海外修学旅行は難しいものの、高校は石垣島、中学は沖縄、イングリッシュキャンプは長崎ハウステンボスと遠方への旅行も実施できた 留学関係もターム留学については再開し、残るフィリピン研修も次年度から再開させる見込みである。</p> <p>ア) 結果：△ 入試制度改善としては、英語入試の受験機会を2回から3回に増やし、また算数だけで受験できる算数型入試を新規に設置した。受験者数は昨年度から4名増加の58名となり、入学者も昨年度より8名増の56名となった。</p> <p>イ) 結果：○ 受験者数は65名増加の208名となり</p>	

				<p>専願・併願とも大幅に増加した。入学者も30名増の154名となった。要因には数年かけて取り組んできた中学校との信頼醸成の結果もあるが、近隣私学の入試変更の影響も大きく、油断は禁物である</p>
2 教育力の向上	(1) 21世紀型教育の定着と充実に向けての教育力向上	1)英語イマージョン教育の充実	ア)イマージョン委員会を設置	ア)結果：○ イマージョン委員会を設置し定期的に会議を開催、ネイティブ教員同士の連絡・情報共有を行っている。
			イ)オリジナル教材の製作	イ)結果：○ 高校理科・数学について、ネイティブ教員を中心に、オリジナル教材を制作している。今後も継続して内容を更新していく予定である。
		2)PBL教育の推進	ア)授業研修の充実	ア)結果：△ 夏休み中に「授業」をテーマとした小中高合同研修会を教育内容の連携を目指して実施し、夏休み明けに中高内で「教員のキャリア形成」をテーマにミニ教員研修実施した。一昨年に実施した授業見学は行えなかったため、次年度は必ず実施する予定である。
		3)ICT教育の充実	ア)ICTを活用した授業の推進	ア)結果：△ LAN環境整備は進んだが、つながりにくいという課題は継続している。ICT委員会を中心に、5G回線を利用したルータやフィルタリングのクラウド化などボトルネックを解消する取組みを続けており、次年度には改善が期待される。授業でのICT活用はコロナ禍のオンデマンド授業を通じ、ほとんどの教員が実施できている。
	4)グローバル教育の充実	ア)国際交流プログラム・短期留学の充実	ア)結果：○ カナダへのターム留学を再開し、短期のコリブリ・フランス研修については、2022年度より再開した。残るフィリピン研修についても、研修内容の充実も含め来年度再開に向けて準備を進めている。	
		イ)語学検定など、資格取得の推進	イ)結果：○ 英語検定は中学生全校実施を、また外部業者による英検対策講座の実施など、資格取得を推進している。 また校内で、TOEFL、フランス語検定、DELFDALF、硬筆・毛筆検定、漢字検定、ニュース検定の受験を積極的に勧め、資格取得者を増やしている	
		ウ)海外進学を意識したイベントの充実と実績	ウ)結果：○ 高校生向けに、国際交流センターが主催し、定期的に海外進学・留学説明会を実施した。	

		5)進路実績の向上	<p>ア)関西学院大学との教育連携強化、指定校推薦枠を利用できる生徒の増加</p> <p>イ)受験による進学実績の向上</p> <p>ウ)「個々の能力にあった教育」</p>	<p>ア)結果：○ 指定校推薦利用者は例年通り40%前後と例年と変わらない。連携協定校の関西学院とは、大学訪問も再開し、推薦進学者は3年連続10名以上となった。</p> <p>イ)結果：△ 進路指導部は都度ガイダンスを実施し、こまめに生徒に情報提供を行ってきた。また学年会もモノカイの大学生と手を組み、生徒に働きかけを行ってきた。 進路実績としては今年度も指定校推薦・総合選抜を効果的に活用し3割が関関同立以上、6割が有名私大に進学した。一般入試でも上智大・関学など有名私大への合格を果たしたが、国公立合格者は0名と奮わなかった一面もある。</p> <p>ウ)結果：○ 生徒の希望に沿った進路指導を、担任・学年団を中心として実施してきた。また進路指導部は大学の情報収集に努め、生徒及び担任に情報提供を行った。結果として生徒は文系・理系・国際系・芸術系など自分が希望する幅広い進路に進学している。</p>
		6)教員個人の教育力向上	<p>ア)教員対象授業研修の実施</p> <p>イ)若手教員向けの教員研修の充実</p>	<p>ア)結果：△ 全員を対象とする授業研修、キャリア研修を実施したが、個々人が自主的にとりくむ研修参加はまだ少ない。外部研修の紹介など、参加を勧めることが必要である。</p> <p>イ)結果：△ 中高連の部会が実施する生徒指導・人権教育の外部研修には参加してもらったが、校内の若手教員のみを対象とした研修を行うことができていない。</p>
3 施設設備の	(1)学校改革に見合った組織と施設設備の充実	<p>ア)中高男子サッカー部長期計画</p> <p>イ)教室の整備</p>	<p>ア)中高男子サッカー部についての長期計画を検討する</p> <p>イ)クラス数増に見合った教室の整備</p>	<p>ア)結果：△ 中学校男子生徒におけるサッカー部員の割合が高く、そのバランスが課題である。2023年度入試では人数をおさえ、かつサッカー部以外の男子生徒も10名近く入学するなどバランスは改善されつつある。一方グラウンドでの窮屈さなど適正規模については継続して検討が必要である。</p> <p>イ)結果：△ 中学校2クラス、高校4クラスに対応できる普通教室・設備を整備してきたが、2023年度はほぼいっばいの状況である。また設備（エアコン・プロジェクター・黒板）の更新が課題である。</p>

充 実	ウ)環境の整備と充実	ウ)部室、更衣室、ICT環境等の整備と充 実を行う	ウ)結果：△ ICT環境についてはICT委員会と業 者に協力により継続的に改善を続けて いる。体育館更衣室の熱中症対策が急 務であり、2023年度に冷房設備設置を 目標に整備を進めている。グラウンド の周辺対策として、ネットのかさ上げ や南面への追加工事を実施した。 その他調理室・PC教室機器の更新な ど計画的な設備更新が必要である。
	エ)小学校との連携	エ)様々な面で、併設小学校との情報共 有、連携を行う	エ)結果：○ 中学校・高等学校の校長が小学校校 長を兼ねる形で情報共有・連携を目指 し、一定の成果はあったと思われる。

【学校関係者評価】

- ・多岐にわたり学校としてまた先生方に日々ご尽力いただいていることに感謝いたします
- ・受験に関しては複雑化する中、保護者に対しても学校から説明いただけるのは大変助かっている。こども達がよくわかっていない部分もあるが、進路を考えたり説明いただいたりする機会は与えられていると思う。引き続き生徒や保護者に大学入試等の進路の情報をアップデートいただければ助かる
- ・施設については費用面での課題から体育館の冷房設備を整えるのはすぐに難しいと考えますが、熱中症対策や健康面の対策という重要な部分もあるため、今後引き続き検討していただきたい
- ・アサンプションのモットーを中心にした教育を提供していただいていることで、さまざまな学校がある中とてもよい雰囲気である学校だと思うので、引き続き歴史・モットーを大切にされた教育を続けていただきたい